

ふくしまからはじめよう。



応援隊通信



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

平成 26 年 11 月 vol.5

復興へ向けて歩む福島県の今を伝えるため、「ふくしまからはじめよう。応援隊」情報発信事業に取り組んでいただいている全国各地の福島県人会の活動報告をご紹介します。

東久留米市福島県人会（東京都）

「市民みんなのまつり」

11月8日(土)・9日(日)に東久留米市民みんなのまつり(第43回商工祭)がおこなわれ、東久留米市福島県人会では3回目の出店をしました。

当日は天候を心配しながらの販売となりましたが、この市民まつりでは、会員 31 名が福島の物産の販売や観光PR、県からの委託の福島県アンケート調査などを行いました。

物産販売は、福島市のハチミツ、国見町のリンゴ・柿、会津坂下の味噌・醤油・味噌漬け、会津田島の米・トマトジュースなどで、9 日の閉会直前でほぼ完売の結果となりました。

東日本大震災から3年と8ヶ月。未だ12万数千人の方が避難生活を余儀なくされています。一日も早い復興を願い、県人会としてできる支援活動を会員の皆さんの声にそって今後とも進めていかねばならないこと、県人会のさらなるレベルアップを図ることをこの取り組みの中で思いを新たにされたようです。



越谷市福島県人会（埼玉県）

「市民まつり」

越谷市民に福島県の正しい情報を広く知っていただくため、10月26日（日）、越谷市福島県人会は、同市民まつりに参加し、「ふくしま」の安全・安心をアピールしました。具体的には福島県の「観光キャンペーン」、県依頼の「アンケート調査」、「福島支援の募金活動」、「福島県産の農産物販売」等を実施しました。

福島県産の農産物販売については、野菜は大根、果物はりんご、米は会津のササニシキを選定し、農家や農協と交渉する一方、「安全、安心でおいしい福島」の〇〇」というキャッチコピーを作り、早くから準備してきました。その甲斐あって、準備した3品とも売れ行き好調でした。

越谷市は人口33万人の東京のベッドタウンで、福島県二本松市の安達太良山麓に「あだたら高原少年自然の家」を有しており、市民の福島県に対する親近感が強く、「ありがとうございます」と言ってパンフレットを笑顔で受け取ってくれる人が多いとのことで、大変心強く思いました。



店舗は大繁盛



店内の様子

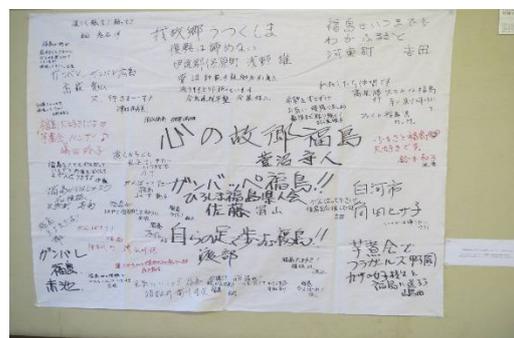


準備整い開店待ち

福岡福島県人会から 応援フラッグをいただきました

福岡福島県人会が行ったイベントにおいて、市民の方々からのメッセージが寄せ書きされた応援フラッグをいただきました。

県庁本庁舎2階「県民ルーム」に掲示しております。



次回も、各地の県人会の皆さんの活動を紹介します。事業実施中の県人会は活動報告よろしくお願ひします。

【編集・発行】

福島県 県民広聴室

TEL : 024-521-7013

Eメール : koucho@pref.fukushima.lg.jp

